

自己点検書

(1. 概要編)

対応基準：国立高専教育国際標準（2022年度～）

適用年度：2025年度

東京工業高等専門学校

National Institute of Technology ,Tokyo College

機械工学科	Department of Mechanical Engineering
電気工学科	Department of Electrical Engineering
電子工学科	Department of Electronic Engineering
情報工学科	Department of Computer Science
物質工学科	Department of Chemical Science and Engineering

評価分類：新規評価

提出日 令和 7年 5月20日

1.1 学校情報

(1) 申請高等専門学校名およびその英語表記

申請高等専門学校名：東京工業高等専門学校 (National Institute of Technology ,Tokyo College)

申請者氏名：樋口 聡

申請者氏名 (カナ)：ヒグチ アキラ

役 職：校長

(2) 学科名名称

機械工学科

電気工学科

電子工学科

情報工学科

物質工学科

(3) Department/Course Title

Department of Mechanical Engineering

Department of Electrical Engineering

Department of Electronic Engineering

Department of Computer Science

Department of Chemical Science and Engineering

(4) 連絡先

- ・国立高専教育国際標準対応責任者氏名：波止元 仁

所属・役職名：一般教育科 准教授／第三者評価専門委員会委員長

郵便番号：193-0997

住 所：東京都八王子市櫛田町 1220-2

電話番号：042-668-5138

メールアドレス：hatomoto-jin@tokyo-ct.ac.jp

- ・国立高専教育国際標準対応事務担当者氏名：中田 真弓美

所属・役職名：総務課総務企画係長

郵便番号：193-0997

住 所：東京都八王子市櫛田町 1220-2

電話番号：042-668-5085

メールアドレス：somu@tokyo-ct.ac.jp

1.2 学校の概要（学校の概要を2ページ程度で簡潔に記載する）

1. 学校の概要

東京工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、昭和40年4月に、機械工学科、電気工学科及び工業化学科の3学科で設立された。その後、昭和45年4月の電子工学科の設置、昭和63年4月の情報工学科の設置、平成5年4月の物質工学科の設置（工業化学科の改組）、平成15年4月の専攻科（機械情報システム工学専攻、電気電子工学専攻、物質工学専攻）の設置を経て、現在に至っている。

現在、本校では、建学当初の「どのような局面にも対処できる柔軟な心と いかなる困難も乗り越えうる強固な意志と あらゆる試練に耐えうる健全な身体を持ちしかも人間として好ましい味と深みとのある人柄であり必要な学問と技術との基礎を充分身につけていて いつでもどこでも自由に応用できる能力があり 長い一生を通じて限りなく伸び続けていくことのできる 潜在力のある人間を育成する」（初代校長 岡 俊平）との教育方針を受け継ぎ、「早期体験重視の教育を通して、創造力・実践力・応用力の備わった技術者を育成する」という理念・目的の基に、後述する「社会実装教育」を核とする「新カリキュラム」を用いて、次の人材像を掲げ学際性を有する実践的な技術者教育を実施している：

- (1) 技術者としての行動規範（自律的な行動）を身につけ、グループ活動における協調性とリーダーシップを持つ技術者。
- (2) 異文化理解とコミュニケーション能力（国際性と語学力）を持つ技術者。
- (3) 基礎学力と専門分野学力（もの作りの知恵、類推力、段取り力）を修得し、継続的な自己啓発能力（学び続ける力）を持つ技術者。

具体的には、中学校卒業生をアドミッションポリシーに沿って受け入れ、ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーに基づき、高い専門性を保証する基準を定めて（[url: 本校の基礎的な教育情報の公表 | 国立東京工業高等専門学校](#)）本科5年でトップエンジニアを目指す学生を育てるとともに、さらに専攻科2年で国際化・複合化に対応できるものづくり技術者の育成を行っている。

本科第1学年は学際的な素養の養成の観点から、志望学科の異なる新生を混合したクラス編成を行い、基礎的一般科目および全学科の入門的実験実習科目を全員が履修する新生課程と位置付けている。この学習を通じて幅広く専門学科の様子を理解し、希望と適性等に応じて、第2学年に進級する時点で学科配属を決定している。

本科第2・第3学年は基盤力育成課程として一般科目及び学科ごとの専門科目を学習する。各学年では、実験・実習と組み合わせられた座学が効率よく配置され、体感・実感をともなった工学・技術の基礎を修得する。

本科第4・第5学年はトップエンジニア育成前期課程として「役立つ技術者」を目指している。大きな特徴として、本科5学科での各専門領域を主軸とした学際的な分野横断的な学修プログラム「社会実装プロジェクト」と名付けたPBL教育、すなわちユーザ・社会との協働を意識して、課題を見出し、その解決に向けて試作を繰り返しながら新たな価値を生み出す経験学修の場を設けている。加えて、第4学年では全員がインターンシップを経験し、第5学年では卒業研究および卒業研究発表会を実施する。学生約5名に指導教員1名が担当し、密度の濃い卒業研究を行っている。

本科卒業生、専攻科修士の進路状況は人材像、ディプロマポリシーに沿う実践的な専門性を活かした就職先や進学先への進路となっている（[url: 入試関連データ | 東京工業高等専門学校](#)）。本科卒業生では就職と進

学が約半数ずつとなり、年度により多少のばらつきはあるが2024年度の就職割合が約48%、進学割合が約46%（10%が専攻科に進学、36%が大学編入）となっている。専攻科修了生の2024年度の進路状況は、64%が就職、36%が大学院への進学となっている。

本校では、人材像養成のための革新的な「新カリキュラム」(url：[新たなカリキュラムの導入 | 国立東京工業高等専門学校](#))を平成28年度から導入するとともに、教育改革の柱の一つとして、先にも述べた「社会実装教育」(url：[社会実装教育フォーラム | 国立東京工業高等専門学校](#))を提案し、その具現化と着実な推進に取り組んでいる。「社会実装教育」の取り組みを持続可能なものとするため、「新カリキュラム」では4、5学年に「社会実装教育」を体現する科目「社会実装プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ」(計5単位)を組み入れ、平成19年に日本技術者教育認定機構よりJABEE認定を受けた「創成型工学教育プログラム：工学(融合複合・新領域)関連分野」(url：[本校の教育 | 国立東京工業高等専門学校](#))を融合することにより本校独自の教育の確立を目指している。同時に「新カリキュラム」の適正な履行のための継続的な点検と改善をしている(url：[自己点検・評価 | 国立東京工業高等専門学校](#))。

他方、「新カリキュラム」を主軸として高専教育改革を目指した特色あるプロジェクトを進めている。分野を問わず低学年から組み込み技術をより学びたいと考える多くの学生が集まり、より実践的なスキルを身につけるためのプログラムである「組み込みシステム開発マイスター」育成制度(url：[東京高専情報工学科](#))を導入している。この制度を活用して技術力を高めた学生は各種コンテスト等で優秀な成績を収めており、教育効果が顕著に現れている。分野横断的に利用できる「はざまる工房」(url：[はざまる工房](#))、特に起業家精神をものづくりの観点から醸成することを目的とした「起業家工房」を設置し、全ての学生、教職員に対して「社会実装教育」の場として活用されている。令和2年度に、高度な情報教育を施すために、文部科学省により認定された教育プログラム「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」(url：[数理・データサイエンス・AI教育プログラム | 国立東京工業高等専門学校](#))も「新カリキュラム」に組み入れ、令和5年度には社会実装教育研究センターが「国立高等専門学校機構教育研究等拠点(総合型)」として認定され、一層の実践的技術者養成をしている。

専攻科では、トップエンジニア育成後期課程として「頼られる技術者」を目指している。1か月のインターンシップ、特に海外でのインターンシップにより一層の学際性を有するグローバルエンジニア育成及び学会で講演できる水準である特別研究を実施し、より高度なものづくりに関連する技術力をもった柔軟性のある学生を育てている。特に令和4年に専攻科でもカリキュラム改革を行い、学びの個別最大化を目的とした「インターンシップキャリアデザイン」と「イノベティブリサーチプロジェクト」という科目を設置した。これらは、学生自らの個性や興味を活かせるキャリアをイメージさせ、自分のライフプランを考えるきっかけを与えることにより、生涯を通じて主体的に学ぶ仕組みの確立を目指すものとなっている。また、専攻科は、平成26度から全専攻で特例の適用認定を受けており、令和元年度のレビュー審査においても引き続き全専攻で適用認定を受けている。

本校は、このような技術者教育により、地域、そして地球社会に貢献し、持続可能な社会の創成の役割を担うことを指向している。特に、本校が首都東京圏にあり、また就職先も首都圏が多いことから、今後の、わが国や世界のものづくり産業の潮流を敏感に捉え、その流れを理解しながら、産業の先端を牽引し、邁進するトップエンジニアの育成を目指している。

1.3 最近の教育改善活動の状況

本校が掲げる人材像教育方針に沿い、学生に明確な到達目標を示すと共に時代に合わせた授業内容・方法を改訂する目的の下、学生が生涯をかけて主体的に学ぶ基礎となるよう「社会実装教育」を軸とする「新カリキュラム」において抜本的なカリキュラムの見直しを図った。「新カリキュラム」は、平成24年度に機構本部が策定したモデルコアカリキュラム（以下「MCC」）に準拠したカリキュラム設計とこれに対応したシラバスに基づいている。MCCにおける「コア」は各学問分野のミニマムスタンダードとなる科目群が、「モデル」は基礎的資質・能力を修得するための実践的な学習活動である「卒業研究」、「創造実験」や「インターンシップ」などの従来のものに加え、学際的な創造性・デザイン能力の修得のために分野横断的な主体的学修による問題解決能力を育成する新設科目である本校特有の「社会実装教育」を体現する科目群が対応付けられている。

「新カリキュラム」の適正な履行のための点検と改善に対しては、自己点検評価委員会からのトップダウン、教学マネジメント委員会からのボトムアップ双方向のインプット・アウトプット・フィードバックを重ね、学内の全教員が集まる教育研究会において「新カリキュラム」指導上の良い点や問題点などの確認と共有をしている。その上で全担任と学科長等が集まる学習到達度検討会において、学生指導計画から改善、学生指導上の詳細なグッドプラクティスの共有をして全学的な点検を行っている。

他方、学校教育に関する論文発表や対外発表・講演などの教育研究活動についても継続的に行っている([url: 教育研究業績 | 国立東京工業高等専門学校](#))。本校各構成員が本校研究報告書や日本工学教育協会「工学教育」や各専門領域における学会等への論文発表や講演を行っている。特に「社会実装教育」に関しては、平成23年度より本校が中心となり継続的に実施している「社会実装教育フォーラム」などで社会実装教育の成果発表が継続的に蓄積されている。

基準1 学習・教育到達目標の設定と公開

毎年実施している内部質保証としての自己点検評価とそのホームページへの公開に加え、本校在学生へのアンケートや本校卒業生の卒業アンケート、本校卒業生が関わる企業へのアンケート、本校の職員以外の者で高等専門学校に関し広くかつ高い識見を有する者により構成される「参与会」からの、内外からの意見を広く集約して本基準項目の点検をしている。

本校が掲げる人材像を養成するディプロマポリシーについて、学生がより明確に理解しやすいような改善が必要との観点から、更なる具体化を目指した改善に取り組むべく、教育研究会において全学的なFDを実施して方針の共有と意見の集約を行い、教学マネジメント委員会が中心となり継続的な改善に向けた検討を行っている。

基準2 教育手段

本校カリキュラムポリシーに沿うカリキュラムマップの各科目シラバスを教員と学生で確認することにより、シラバスに則った適正な授業と成績評価が履行されることを確認している。各教員が実施する授業改善記録を教務委員会が集約して教育研究会で共有し、さらにそれらを教学マネジメント委員会が学習到達度検討会での学生指導の問題点や指導計画などと併せて総括することにより本基準項目の点検をしている。

学生が自身でディプロマポリシーに対する達成度合いを確認する仕組みの運用については、学生ポートフォリオや「学びの状況調査」などを活用しているが、MCC対応科目などとの連動が弱いことが課題となっており、この仕組みの骨組みの再構築に向けた検討を行っている。

基準3 学習・教育到達目標の達成

全卒業生が本校ディプロマポリシーを満たすことについて、「創造実験」、「インターンシップ」、「社会実装教育科目」、「卒業研究」などの必修得科目が全て合格の上で本校の卒業要件を満たすことを、全担任と学科長等が集まる卒業判定会議において確認している。

一方で、全卒業生が全てのMCC項目を満たすことについては、過年度卒業生のMCC対応科目の合格率を調べた結果、一部のMCC対応科目の合格率が100%ではなく、上位レベルMCC対応の必修得科目群による補完が十分ではないことから、完全な安全策としてMCC（学習レベル）到達確認指導プログラム制度の導入の必要性を理解して教育研究会での全学的なFDを通じて共有し、喫緊の課題として計画的な改善に向けて取り組んでいる。

1. 4 自己点検結果の総括文

基準1 学習・教育到達目標の設定と公開

本校が掲げる人材像を養成するために、3ポリシー（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）が設定されている。これらの点検を図る組織として自己点検評価委員会が、設定と改善を図る組織として教学マネジメント委員会がある（資料1-1-1-1、1-1-1-2）。人材像や3ポリシーの周知方法として、本校ホームページと各教室掲示や学生便覧への記載の上で年度初めの全教職員が集まる教育研究会において、教職員への周知と学生指導の確認を行い、担任教員から学生へ周知指導をしている（資料1-1-1-3-1、1-1-1-3-2、1-1-4-1、1-1-4-2）。ディプロマポリシーは、MCCで定められた能力分野の到達レベルを含むような設定がされ、「新カリキュラム」の特徴を反映したMCCモデル科目「社会実装教育科目」が設定されている（資料の表3と4）。

人材像や3ポリシーに対する意見集約の場として、在校生・卒業生へのアンケートや企業アンケートに加え、外部有識者から構成される参与会がある。これらの意見を自己点検評価委員会で確認と点検をし、改善へ繋がる仕組みを整えている（資料1-1-5-1～1-1-6-4、1-1-7-1）。

以上については貴認定基準への適合度が高いと考えているが、他方で、本校が掲げる人材像を養成するディプロマポリシーについての点検結果、学生がより明確に理解しやすいような改善が必要であると考え、具体化に向けた改善に取り組んでいる（4-2-2-1-1-2_教育研究会資料(IR室報告20240725)）。

基準2 教育手段

カリキュラムポリシーに基づいた教育課程表があり、各科目シラバスにはMCCで定められた到達目標と到達レベルの設定がなされ、合格達成度評価基準を含めた記載があり、これらのことはwebシラバスにより確認できる。カリキュラムポリシーは本校ホームページ、学生便覧に記載されている（資料2-1-1-2-1、2-1-3-1、2-1-4-1）。

シラバスに基づく教育の実施については、自己点検評価委員会からの依頼を受けた教務委員会が全教員実施の授業改善記録を確認して、教育研究会の場で共有し、自己点検評価委員会へ報告をしている（資料2-2-1-1～2-2-3-1）。学生の方針横断的な能力を点検するための仕組みとして、学生の主体的な学びを促す教育としても位置付けられている「社会実装教育科目」があり、教務委員会が実働的な実施組織としてシラバスに基づいた教育を実施していることを確認し、上述の通り教育研究会で共有して改善へとつなげる仕組みがある（資料2-2-4-2）。学生が自身の達成度を点検・反映する仕組みとして「社会実装教育科目」や本科5学科の「創造実

験」科目の実験スキルシートや「卒業研究」科目の卒業論文、年度内に担任により実施される学生ポートフォリオが整備されている（資料 2-2-4-1～2-2-4-3）。学生の主体的な学びを促す教育の仕組みとして、「社会実装教育科目」以外では、「組み込みシステム開発マイスター」育成制度が整備されている（資料 2-2-6-1）。

教員団、教育支援体制の整備については、教員の博士取得率、実務家教員数やその科目担当数により確認ができ、点検と改善に向けた取り組みとしては、専任教員でより多くの分野をカバーできるように教員採用公募の見直しなどを行っている（資料 2-3-1-1～2-3-2-2）。教育の実施にあたっての支援体制について、全教員が集まる教育研究会での問題点や改善計画などの共有、カリキュラムが適正に履行したことを確認する教務委員会、教員の教育研究活動を評価する人事委員会があり、授業評価アンケートや授業参観記録、教育研究活動申告などの確認が行われている（資料 2-3-3-1～2-3-3-3、2-3-3-4-1）。

アドミッションポリシーをホームページ、入試募集要項で公開して学生を受け入れ、入学後の学科配属の仕組みや転科制度も整備して公開している（HP の ur1、資料 2-4-2-1～2-4-3-2）。教育環境および学習支援環境について、学生が自主的に学習活動をする場として図書館があり、分野横断的な学びの場としてはざる工房と起業家工房がある（資料 2-5-1-1、2-5-1-2）。学習支援制度として、成績不振学生に対して教育研究会や学習到達度検討会での支援計画の共有、自学自習室での TA 制度や組み込みマイスター、数学相談室や英語相談室、一部の学科で実施している外部資格取得講座などがある（資料 2-5-2-1、2-5-2-2）。寄り添う学生支援体制構築にかかる取り組みとして、専門的なカウンセラーが常駐して配慮学生への支援をするウェルネスセンターがある（資料 2-5-3-1～2-5-3-3）。学校生活支援制度としては留学生チューター制度がある。学生情報の活用状況については、累加記録や担任所見、進路変更に関する届や願などが閲覧可能となっている。

以上については貴認定基準への適合度が高いと考えているが、学生が自身でディプロマポリシーに対する達成度合いを確認する仕組みの運用については、MCC 対応科目などとの連動が弱いことが課題であり、このことについて検討を始めている。

基準 3 学習・教育到達目標の達成

全卒業生が本校ディプロマポリシーを満たすことについて、学生便覧に記載されている学年課程認定修了基準に基づき、各学年進級時と卒業時に必要な必修得科目の合格と必要修得単位数を確認している。この上で卒業学年において全担任と学科長等が集まる卒業判定会議において最終的な確認をしている（資料 3-1-1-1）。

以上については貴認定基準への適合度が高いと考えているが、一方で、全卒業生が全ての MCC 項目を満たす仕組みについては、過年度卒業生の MCC 科目合格状況（資料 3-2-1-1-3）を調べた結果、MCC（学習レベル）到達確認指導プログラム制度の導入に向けて取り組んでいる（資料 3-2-1-1-1、3-2-1-1-2）。

基準 4 教学マネジメント活動による教育改善

基準 1 から 3 の教育活動を点検する内部質保証組織として、自己点検評価委員会があり、改善をする組織として教学マネジメント委員会がある（資料 4-1-1-1）。自己点検評価委員会からの改善要請を受けて、教学マネジメント委員会を主体として科目レベルでの実働的な組織として本科に対しては教務委員会が（資料 4-1-1-2-3）、専攻科に対しては専攻科委員会がある（資料 4-1-1-2-2）。データに基づいて分析する組織として、教学 IR 室がある（資料 4-1-1-3）。これらの自己点検評価結果についてはホームページ上で公開している。教育活動に

対しての社会の要求や学生の要望に配慮するための組織として、自己点検評価委員会と教学マネジメント委員会があり、自己点検評価委員会で点検をして、教学マネジメント委員会で改善をしている（資料 4-1-4-1、4-1-4-2）。これら点検結果はホームページ上で学内外へ公開されている。教育活動に対しての社会の要求、学生の要望に配慮するための仕組みを所掌する組織として教学マネジメント委員会があり、教育活動に対しての社会の要求に配慮するための仕組みと教育活動に対しての学生の要望に配慮するための仕組みもある（資料 4-1-4-1～4-1-6-1-1）。これらの改善活動については、必要に応じて全教員が集まる教育研究会において共有され、特徴的な教育活動の実例は学習到達度検討会にて報告され、組織的な教育活動の改善につなげている（資料 4-2-2-1-1）。

本科・専攻科カリキュラムレベルでの改善を所掌する部署として教学マネジメント委員会があり、本科の科目レベルでの改善を所掌する組織として教務委員会、専攻科の科目レベルでの改善を所掌する組織として専攻科委員会がある（資料 4-2-1-1-1～4-2-1-2-2）。データに裏付けられた教育改善の実施状況については、教育研究会での教学 IR 室の報告、CBT 結果を分析し（資料 4-2-2-1-1）、学内の意識を統一して改善に向けた点検を絶え間なく実施している（資料 4-2-3-1-1）。

項目	設問	記述		指定添付資料番号	エビデンス (番号：資料名で記載)
基準1 学習・教育到達目標の設定と公開					
1.1 育成する人材像の設定と公開		◎ (認定基準の要求事項を高い水準で満たしている)			
設問1-1-1	人財像および学習・教育到達目標の設定・改善を所掌する組織				
	人財像の設定・改善を所掌する組織名称		組織名称を自由記述	1-1-1-1	1-1-1-1_教学マネジメント委員会規則
	学習・教育到達目標の設定・改善を所掌する組織名称		組織名称を自由記述	1-1-1-2	1-1-1-2_教学マネジメント委員会規則(再掲)
設問1-1-2	学校として育成しようとしている人材像の設定状況				
	学校として育成しようとしている人材像の設定状況	設定している	設定している		
設問1-1-3	人財像の公開状況				
	ホームページ	公開している	教育上の目的 国立東京工業高等専門学校		
	学校要覧	公開していない			
	学生便覧	公開している		1-1-1-3-1	1-1-1-3-1_学生便覧抜粋(人材像)
	シラバス	公開していない			
	履修便覧	公開していない			
	教室掲示	公開している		1-1-1-3-2	1-1-1-3-2_養成する人材像(教室掲示)
	その他				
設問1-1-4	人財像の周知方法				
	人財像の周知方法：教職員		R7当初の教職員集会において、筆頭副校長より各担任に年度初めのHRで学生へ人材像の周知をするよう依頼した。	1-1-4-1	1-1-4-1-1_学生便覧抜粋(人材像)(再掲) 1-1-4-1-2_教職員集会次第+人材像周知の該当部分のpdf
	人財像の周知方法：学生		年度当初に学生便覧を配付して、担任により周知している。	1-1-4-2	1-1-4-2-1_学生便覧抜粋(人材像)(再掲) 1-1-4-2-2_養成する人材像(教室掲示)(再掲)
設問1-1-5	人財像に対する社会や地元からの意見を集約したり学生のニーズ把握を行ったりしている仕組みを所掌する組織				
	社会や地元からの意見を集約する組織		東京工業高等専門学校参与会、東京高専技術懇談会 教学マネジメント委員会、自己点検・評価委員会	1-1-5-1	1-1-5-1-1_教学マネジメント委員会規則(再掲) 1-1-5-1-2_参与会規則 1-1-5-1-3_技術懇談会会則 1-1-5-1-2_自己点検評価委員会規則
	学生ニーズを把握する組織		教学マネジメント委員会、自己点検・評価委員会	1-1-5-2	1-1-5-2-1_教学マネジメント委員会規則(再掲) 1-1-5-2-2_自己点検評価委員会規則(再掲)
設問1-1-6	人財像に対する社会や地元からの意見を集約する仕組みの概要				
	教育内容の外部評価委員会等により外部有識者から意見を聞く場がある	ある	外部評価 国立東京工業高等専門学校	1-1-6-1	1-1-6-1-1_参与会次第 1-1-6-1-2_参与会規則(再掲) 1-1-6-1-3_自己点検評価委員会規則(再掲)
	各校の技術振興会参画企業との懇談会等により意見を聞く場がある	ある	一般社団法人：東京高専技術懇談会 - 会員名簿	1-1-6-2	1-1-6-2_令和6年度第4回技術懇談会 理事会議事録
	卒業生の就職先企業へのアンケート調査を実施している	ある		1-1-6-3	1-1-6-3-1_「卒業生、企業・進学先アンケート実施」について 1-1-6-3-2_就職先企業アンケート 1-1-6-3-3_卒業生・企業アンケートまとめ

項目	設問	記述		指定添付資料番号	エビデンス (番号：資料名で記載)
	卒業生に対してアンケート調査を実施している	ある		1-1-6-4	1-1-6-4-1_「卒業生、企業・進学先アンケート実施」について(再掲) 1-1-6-4-2_卒業生アンケート 1-1-6-4-3_卒業生・企業アンケートまとめ(再掲)
	その他				
設問1-1-7	人財像に対する学生のニーズ把握を行う仕組みの概要				
	学生アンケートの実施	ある		1-1-7-1	1-1-7-1_卒業・修了時アンケート(R06)
	学生との意見交換の実施	ない		1-1-7-2	
	その他			1-1-7-3	
1.2 学習・教育到達目標の設定と公開		◎ (認定基準の要求事項を高い水準で満たしている)			
設問1-2-1	学習・教育到達目標の設定状況				
	学校単位	ある			
	学科/コース単位	ない	学科DP作成に向けて検討している。		
	その他		-		
設問1-2-2	学習・教育到達目標の公開状況				
	ホームページ	公開している	本校における2つの教育方針 国立東京工業高等専門学校 本校の教育 国立東京工業高等専門学校		
	学校要覧	公開していない		1-2-2-1-1	
	学生便覧	公開している		1-2-2-1-2	1-2-2-1-2_学生便覧抜粋(ポリシー、カリキュラムマップ)
	シラバス	公開していない			
	履修便覧	公開していない		1-2-2-1-3	1-2-2-1-3_学生便覧抜粋(ポリシー、カリキュラムマップ)(再掲)
	教室掲示	公開している		1-2-2-1-4	1-2-2-1-4_ディプロマポリシー(教室掲示)
	その他			1-2-2-1-5 ~	
設問1-2-3	学科/コースの学習・教育到達目標とMCCとの対応関係				
	1 学科(コース)目	機械工学科	対応するMCC 主(機械系) 副() 副()		1-2-3_カリキュラムマップ 1-2-3_学則 1-2-3_自己点検書_表3(各学科)
	2 学科(コース)目	電気工学科	対応するMCC 主(電気系) 副() 副()		同上
	3 学科(コース)目	電子工学科	対応するMCC 主(電気系) 副() 副()		同上
	4 学科(コース)目	情報工学科	対応するMCC 主(情報系) 副() 副()		同上

項目	設問	記述		指定添付 資料番号	エビデンス (番号：資料名で記載)
	5学科(コース)目	物質工学科	対応するMCC 主(化学生物系) 副() 副()		同上
	6学科(コース)目	学科/コース名を記載	対応するMCC 主() 副() 副()		
設問1-2-4	学習・教育到達目標の周知方法				
	学習・教育到達目標の周知方法：教職員		R7当初の教職員集会において、筆頭副校長より各担任に年度初めのHRで学生へ人材像の周知をするよう依頼した。	1-2-4-1	1-2-4-1-1_学生便覧抜粋(ポリシー、カリキュラムマップ)(再掲) 1-2-4-1-2_教職員集会次第+人材像周知の該当部分のpdf
	学習・教育到達目標の周知方法：学生		年度当初に学生便覧を配付して、担任により周知している。	1-2-4-2	1-2-4-2-1_学生便覧抜粋(ポリシー、カリキュラムマップ)(再掲) 1-2-4-2-2_養成する人材像(教室掲示)(再掲)

項目	設問	記述		指定添付資料番号	エビデンス（番号：資料名で記載）
基準2 教育手段					
2.1カリキュラム・ポリシーに基づく教育課程、科目の設計と開示		◎（認定基準の要求事項を高い水準で満たしている）			
設問2-1-1	教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）の設定状況				
	学校単位	ある			
	学科／コース単位	ない	学科CP作成に向けて検討している。		
	その他				
設問2-1-2	教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）の開示状況				
	ホームページ	公開している	本校における3つの教育方針 国立東京工業高等専門学校		
	学校要覧	公開している	PDF添付	2-1-1-2-1	2-1-1-2-1_学校案内抜粋(ポリシー)
	学生便覧	公開している	PDF添付	2-1-1-2-2	2-1-1-2-2_学生便覧抜粋(ポリシー)(再掲)
	シラバス	公開していない			
	履修便覧	公開していない		2-1-1-2-3	
	教室掲示 その他	公開していない		2-1-1-2-4 2-1-1-2-5 ~	
設問2-1-3	シラバスの記載状況（自己点検）				
	各科目の到達内容およびMCCとの紐付け	問題なく実施済み		2-1-3-1	2-1-3-1_教務委員会議事要旨
	各科目の評価基準	問題なく実施済み			
設問2-1-4	学習・教育到達目標に対するカリキュラムマップ				
	Webシラバスから閲覧可能	不可能	webシラバスから学生便覧のカリキュラムマップが閲覧できるように対応を検討している。	Webシラバス確認	
	PDF等で閲覧可能	可能		2-1-4-1	2-1-4-1_カリキュラムマップ(再掲)
設問2-1-5	モデルコアカリキュラムに対するカリキュラムマップ				
	Webシラバスから閲覧可能	可能	syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=15&lang=ja	Webシラバス確認	
	PDF等で閲覧可能	可能		2-1-5-1	
設問2-1-6	学科／コースごとのMCC紐付け対応表				
	Webシラバスから閲覧可能	可能	syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=15&lang=ja	Webシラバス確認	
	PDF等で閲覧可能	可能		2-1-6-1	
設問2-1-7	シラバスの開示状況				
	Webシラバスから閲覧可能	可能	syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=15&lang=ja	Webシラバス確認	
	PDF等で閲覧可能	可能		2-1-7-1	
2.2 シラバスに基づく教育の実施と学生の到達状況の可視化に向けた取り組み		○（認定基準の要求事項を満たしており、適合の度合いを高めるための取り組みを行なっている）			
設問2-2-1	シラバスに基づいた教育を実施していることを自己点検する組織				
	組織名称		教務委員会	2-2-1-1	2-2-1-1-1_20240213第11回教務委員会議事要旨 2-2-1-1-2_教務委員会規則
設問2-2-2	シラバスに基づいた教育を実施していることを自己点検する方法・資料				
	自己点検の方法・規定資料		授業改善記録により自己点検している。(教務委員会に詳細な記載を依頼)	2-2-2-1	2-2-2-1_授業改善記録入力フォーム
設問2-2-3	シラバスに基づいた教育を実施していることを確認した状況				

項目	設問	記述	指定添付資料番号	エビデンス（番号：資料名で記載）
	実施状況	授業改善記録	2-2-3-1	2-2-3-1-1_令和7年度第1回教務委員会議事要旨 2-2-3-1-2_授業改善記録
設問2-2-4	学生が自身の達成度を点検・反映するための仕組みと実践状況			
	実験スキルの評価	各学科でポートフォリオを活用している。	2-2-4-1	2-2-4-1_実験スキルシート
	分野横断的能力の評価	学生が自己点検できるような仕組みにはなっている。	2-2-4-2	2-2-4-2-1_インターンシップ報告 2-2-4-2-2_令和6年度社会実装プロジェクトⅢ成果報告会
	ポートフォリオ教育の推進	紙のポートフォリオを5年間通して記載、振り返りを行っているが、WEBでも行えるよう新教学システムを導入予定	2-2-4-3	2-2-4-3-1_パーソナルポートフォリオ書式 2-2-4-3-2_R6卒業生アンケート集計
設問2-2-5	学生が学習・教育到達目標に対する達成度を継続的に点検・反映できる仕組み			
	仕組みを所管する組織	教務委員会	2-2-5-1	2-2-5-1_学びの状況調査
	運用状況	新教学システムを導入予定	2-2-5-2	2-2-5-2_学びの状況調査について（周知）
設問2-2-6	主体的な学習を促す取り組みの状況			
	取り組みを所管する組織	教務委員会	2-2-6-1	2-2-6-1-1_教務委員会規則
	取り組み状況	実験・実習科目やPBL科目、社会実装などが必履修としている	2-2-6-1	2-2-6-1-2_社会実装プロジェクトⅡシラバス 2-2-6-1-3_組み込みシステム開発マイスター概要(参与会資料)
設問2-2-7	設問2-2-1～2-2-6の運用にあたって問題となっていること			
	仕組みごとに問題点を自由記述	2-2-4、2-2-5については、今後新教学システム導入し、学生が達成状況を確認できるような仕組みを、プロジェクトチームを構成して検討している。		
2.3 教員団、教育支援体制の整備と教育の実施		◎（認定基準の要求事項を高い水準で満たしている）		
設問2-3-1	カリキュラムに基づく教育を実施する教員団の状況			
	博士取得率（一般科目担当教員）	取得人数／総教員数：19/40（非常勤講師含む）		
	博士取得率（専門科目担当教員）	取得人数／総教員数：57/62（非常勤講師含む）		
	実務家教員の人数	実務科教員数／総教員数（学科／コース毎）： 一般教育科：9/40 機械工学科：6/15 電気工学科：3/12 電子工学科：2/10 情報工学科：2/10 物質工学科：4/16 （非常勤講師含む）		2-3-1-1_実務経験のある教員による授業科目一覧【令和6年度】
	実務科教員の担当する単位数	4, 5年で担当する単位数（学科／コース毎）		2-3-1-2_実務経験のある教員による授業科目一覧【令和6年度】（再掲）
	特例認定専攻科指導可能教員数	指導可能教員数 機械工学科：7名 電気工学科：5名 電子工学科：6名 情報工学科：6名 物質工学科：6名		
	その他、資格取得者	自由記述：技術士3名（その他の資格が必要な場合はご連絡ください）		
設問2-3-2	教員団構成に対する自己評価と維持・改善に向けた取り組み			
	状況に対する自己評価	自由記述：再雇用教員や非常勤講師を活用し、継続してカリキュラムを担当する教員団を確保できている。		2-3-2-1_自己点検評価
	問題意識のある点	自由記述：専任教員の採用が難しい分野がある。		2-3-2-2_公募書類(応募条件緩和箇所マーク)

項目	設問	記述		指定添付資料番号	エビデンス（番号：資料名で記載）
	維持・改善に向けた取り組み		自由記述：安定した教員団維持のため、専任教員でより多くの分野をカバーできるよう、教員採用の公募内容の一部見直しを行った。		
設問2-3-3	教育の実施にあたっての支援体制について各項目を所掌する組織の有無				
	カリキュラムに基づく教育を円滑に実施するための科目間連携を図る組織の名称		教務委員会	2-3-3-1	2-3-3-1-1_教務委員会規則
	教員の教育活動を評価する組織の名称		人事委員会	2-3-3-2	2-3-3-2_東京工業高等専門学校教職員表彰規則
	学内の教育活動の質的な向上を図る組織の名称		教育研究会	2-3-3-3	2-3-3-3-1_教育研究会規則 2-3-3-3-2_授業参観記録書式 2-3-3-3-3_20250107教務委員会議事要旨
	その他、特徴のある取り組みを実施している場合、その所掌組織の名称			2-3-3-4-1～	2-3-3-4-1_ものづくり基礎工学 シラバス
設問2-3-4	教育の実施にあたっての支援体制について、その取り組み状況				
	カリキュラムに基づく教育を円滑に実施するための科目間連携を図る取り組み		教育研究会で複数学科教員でチームを構成してFDを行っている。 コース選択科目や数理・データサイエンス・AI教育プログラムは複数の科目合格により認定される。		2-3-4-1_教育研究会グループ討議シート 2-3-4-2_コース選択科目（カリキュラムマップ）
	教員の教育活動を評価する取り組み		年に一度、教員が教育研究活動申告を行い、校長が教員の教育活動の状況を確認している。 また、優れた取組には学内の規定に基づき教職員表彰を行っている。		2-3-4-3_東京工業高等専門学校教職員表彰規則
	学内の教育活動の質的な向上を図る取り組み		教育研究会、教育討論会を開催している。教育改善にかかる授業参観を実施している。		2-3-4-4_教育研究会開催状況
	その他、特徴のある取り組み		—		
設問2-3-5	設問2-3-4の開示状況				
	カリキュラムに基づく教育を円滑に実施するための科目間連携を図る取り組み				
	ホームページ	公開している	本校の教育 国立東京工業高等専門学校	2-3-5-1-1	
	学校要覧	公開している		2-3-5-1-2	2-3-5-1-2_学校案内抜粋(教育課程表)
	グループウェア	公開していない		2-3-5-1-3	
	その他			2-3-5-1-4～	
	教員の教育活動を評価する取り組み				
	ホームページ	公開していない		2-3-5-2-1	
	学校要覧	公開していない		2-3-5-2-2	
	グループウェア	公開していない		2-3-5-2-3	
	その他			2-3-5-2-4～	2-3-5-2-4_R06学習到達度検討会事要録
	学内の教育活動の質的な向上を図る取り組み				
	ホームページ	公開していない		2-3-5-3-1	
	学校要覧	公開していない		2-3-5-3-2	
	グループウェア	公開していない		2-3-5-3-3	
	その他			2-3-5-3-4～	2-3-5-3-4_教育研究会規則
	その他、特徴のある取り組みを実施している場合、その取り組み				
	ホームページ	公開していない		2-3-5-4-1	
	学校要覧	公開していない		2-3-5-4-2	
	グループウェア	公開していない		2-3-5-4-3	
	その他			2-3-5-4-4～	
2.4 アドミッション・ポリシーとそれに基づく学生の受け入れ		◎（認定基準の要求事項を高い水準で満たしている）			
設問2-4-1	入学者受入方針（アドミッションポリシー）の設定状況				
	学校単位	ある	本校における3つの教育方針 国立東京工業高等専門学校		
	学科／コース単位	ない			
	その他				
設問2-4-2	入学者受入方針（アドミッションポリシー）の公開状況				
	ホームページ	公開している	本校における3つの教育方針 国立東京工業高等専門学校		
	募集要項	公開している	入試情報 東京工業高等専門学校	2-4-2-1	2-4-2-1_R07募集要項
	その他				
設問2-4-3	入学者受入方針（アドミッションポリシー）に従って学生を受け入れている状況				

項目	設問	記述		指定添付資料番号	エビデンス（番号：資料名で記載）
	選抜の種類、選抜の仕組みの観点から自由記述		PDF添付	2-4-3-1	2-4-3-1_令和5年度自己点検・評価報告書 抜粋（準学士課程の学生の受入れ）
	転科、入学後のコース決定の仕組みと決定状況について自由記述		新2年生学科配属の手順 (1)原則として、2回の学科ガイダンス、2回の予備希望調査の後、最終希望調査を行う。 (2)最終希望調査にもとづき、学科配属手続きを行う。 (3)選考は「後期中間時の学業成績」と「入学時の志望状況」を95：5の重み付けで選考値を計算し、上位のものから第一希望学科順に配属を許可する。 (4)定員超過で選考の結果、配属を許可されなかった者は第二希望に回る。第二希望学科の選考が終わっていた場合は第三希望としていた学科を第二希望と読み替える。同様な読み替えを第三希望以降にも適用する。 (5)第二希望者が加わっても、定員を超えていない学科は、この時点で第二希望者の配属を許可する。 (6)第二希望者が加わったことにより、定員超過の学科は、(4)の方法で配属者を選考する。 (7)以後、(5)(6)と同様な作業を繰り返す。 過去3年の調査より、最終希望調査で第一希望の学科に配属された割合は約95%、また入学時希望した学科を最終希望調査でも希望した割合は約63%だった。	2-4-3-2	2-4-3-2-1 学力検査による入学者選抜試験合格者選考基準に関する細則 2-4-3-2-2_学生の転科に関する細則
2.5 教育環境および学生支援環境の運用と開示		◎（認定基準の要求事項を高い水準で満たしている）			
設問2-5-1	教育の実施および学生支援のために必要な施設設備整備状況				
	学生が自主的に学修するための設備（施設名と運用状況）		施設 国立東京工業高等専門学校	2-5-1-1 ~	2-5-1-1_学生便覧抜粋(学校配置図)
	その他 教育の実施および学生支援にかかる設備（施設の目的、施設名と運用状況）			2-5-1-2 ~	
設問2-5-2	学生支援のために必要な体制並びに活動状況				
	設置されている体制		学習面：自学自習室 学校生活面：ウェルネスセンター	2-5-2-1	2-5-2-1_学生委員会規則
	活動状況		学習面の支援として、数学及び英語教員による「数学相談室」、「英語相談室」を開催している	2-5-2-2	2-5-2-2-1 数学相談室 2-5-2-2-2 電気工事士講座開催通知
設問2-5-3	寄り添う学生支援体制構築にかかる取り組み実践状況				
	ピアサポート（学習面）		ウェルネスセンターを組織し、保健室、相談室を設置。看護師、カウンセラー、スクールソーシャルワーカーの他、学生によるピアサポーターを配置。合理的配慮が必要な学生については、個別に合理的配慮検討チームを立ち上げる。	2-5-3-1	2-5-3-1_ウェルネスセンターパンフレット
	ピアサポート（学校生活面）			2-5-3-2	2-5-3-2_ウェルネスセンターパンフレット(再掲)
	学生のメンタルヘルス支援状況			2-5-3-3	2-5-3-3_学生便覧抜粋(ウェルネスセンター)
	学生情報の活用状況			2-5-3-4	
設問2-5-4	設問2-5-1～2-5-3の取り組みの開示状況				
	学生が自主的に学修するための設備				
	ホームページ	公開している	施設 国立東京工業高等専門学校	2-5-4-1-1	
	学校要覧	公開している		2-5-4-1-2	2-5-4-1-2_学校案内抜粋(キャンパスマップ)
	グループウェア	公開していない		2-5-4-1-3	
	その他			2-5-4-1-4~	
	その他 教育の実施及び学生支援にかかる設備				
	ホームページ	公開している	ウェルネスセンター（学生相談室） 国立東京工業高等専門学校	2-5-4-2-1	
	学校要覧	公開している		2-5-4-2-2	2-5-4-2-2_学生便覧抜粋(ウェルネスセンター)(再掲)
	グループウェア	公開していない		2-5-4-2-3	

項目	設問	記述		指定添付資料番号	エビデンス（番号：資料名で記載）
	その他			2-5-4-2-4～	
設置されている体制					
	ホームページ	公開している	ウェルネスセンター（学生相談室） 国立東京工業高等専門学校	2-5-4-3-1	
	学校要覧	公開している		2-5-4-3-2	2-5-4-3-2 学生便覧抜粋(ウェルネスセンター)(再掲)
	グループウェア	公開していない		2-5-4-3-3	
	その他			2-5-4-3-4～	
その他、特徴のある取り組みを実践している場合、その取組					
	ホームページ	いずれかを選択	URLを記載、なければ空欄	2-5-4-4-1	
	学校要覧	いずれかを選択	PDF添付、なければ空欄	2-5-4-4-2	
	グループウェア	いずれかを選択	PDF添付、なければ空欄	2-5-4-4-3	
	その他		PDF添付、なければ空欄	2-5-4-4-4～	
設問2-5-5	設問2-5-1～2-5-4の運用にあたって問題となっていること				
	問題点		自由記述	2-5-5-1～	

項目	設問	記述		指定添付資料番号	エビデンス（番号：資料名で記載）
		基準3 学習・教育到達目標の達成			
3.1 学習・教育到達目標の達成		選択してください			
設問3-1-1	卒業生が学習・教育到達目標で規定されている到達目標について身につけていることを点検・確認する方法				
	点検・確認手段	ある		3-1-1-1	3-1-1-1-1_東京工業高等専門学校学業成績の評価 3-1-1-1-2_学年課程修了認定等に関する内規
	評価対象		全卒業生		
	評価方法		卒業判定会議、卒業生アンケート		
	評価基準		卒業に必要な単位数と必履修科目の修得有無等		
	確認状況の自己点検		自己点検評価書と卒業生アンケートに基づくフィードバック		
3.2 MCCから見た卒業生の到達度点検		選択してください			
設問3-2-1	卒業生がモデルコアカリキュラムで規定されている到達目標について身につけていることを点検・確認する方法				
	点検・確認手段	ない	R6卒業生のMCC科目の合格率を調べたところ、MCC（学習レベル）到達確認指導プログラム制度（仮）の導入の必要性を理解し検討している。	3-2-1-1	3-2-1-1-1_教育研究会資料_1024 3-2-1-1-2_教学マネジメント委員会資料_0306 3-2-1-1-3_MCC達成率_25_0306
	評価対象		全学生		
	評価方法		検討中		
	評価基準		検討中		
	確認状況の自己点検		自由記述		

項目	設問	記述	指定添付資料番号	エビデンス (番号: 資料名で記載)
		基準4 教学マネジメント活動による教育改善		
4.1 内部質保証システムの構成・実施と開示		選択してください		
設問4-1-1	教育活動を点検する内部質保証組織の有無			
	本科の教育活動を点検する組織 (PDCAのCを担う組織) の規定	ある		4-1-1-1 4-1-1-1 教学マネジメント委員会規則(再掲)
	カリキュラムレベルでの組織		教学マネジメント委員会	4-1-1-1-1
	科目レベルでの組織		教学マネジメント委員会	4-1-1-1-2
	教育基盤 (教育支援体制、教育環境、学生支援環境) レベルでの組織		人事委員会、教務委員会、学生委員会、寮務委員会、教育支援・産学連携センター	4-1-1-1-3 4-1-1-1-1_人事委員会規則 4-1-1-1-2_教務委員会規則(再掲) 4-1-1-1-3_学生委員会規則(再掲) 4-1-1-1-4_寮務委員会規則 4-1-1-1-5_教育研究技術支援センター規則
	専攻科の教育活動を点検する組織 (PDCAのCを担う組織) の規定	ある		4-1-1-2 4-1-1-2 教学マネジメント委員会規則(再掲)
	カリキュラムレベルでの組織		教学マネジメント委員会	4-1-1-2-1
	科目レベルでの組織		教学マネジメント委員会	4-1-1-2-2
設問4-1-1	教育基盤 (教育支援体制、教育環境、学生支援環境) レベルでの組織		人事委員会、専攻科委員会、学生委員会、寮務委員会、教育支援・産学連携センター	4-1-1-2-3 4-1-1-2-3_人事委員会規則(再掲) 4-1-1-2-3_専攻科委員会規則(再掲) 4-1-1-2-3_学生委員会規則(再掲) 4-1-1-2-3_寮務委員会規則(再掲) 4-1-1-2-3_教育研究技術支援センター規則(再掲)
	データに基づいて分析する組織(IR)の規定	ある	教学IR室	4-1-1-3 4-1-1-3教学IR室規則
設問4-1-2	設問4-1-1で記載した組織が実施する点検活動の実施内容と実施状況			
	カリキュラムレベル			
	実施内容 (本科)		自由記述	4-1-2-1 4-1-2-1-1_自己点検・評価委員会規則(再掲) 4-1-2-1-2_東京高専教学アセスメントプラン 4-1-2-1-3_教学マネジメント委員会規則(再掲) 4-1-2-1-4_教学IR室報告20240725(教育研究会投影資料)
	実施状況 (本科)		自由記述	
	実施内容 (専攻科)		自由記述	4-1-2-2 4-1-2-2-1_自己点検・評価委員会規則(再掲) 4-1-2-2-2_東京高専教学アセスメントプラン(再掲) 4-1-2-2-3_教学マネジメント委員会規則(再掲) 4-1-2-2-4_教学IR室報告(20240725(教育研究会投影資料)(再掲)
	実施状況 (専攻科)		自由記述	
	科目レベル			
	実施内容 (本科)		自由記述	4-1-2-3 4-1-2-3_令和5年度自己点検評価報告書_評価の視点1-1根拠資料

項目	設問	記述		指定添付資料番号	エビデンス（番号：資料名で記載）
	実施状況（本科）		自由記述		
	実施内容（専攻科）		自由記述	4-1-2-4	4-1-2-4_令和5年度自己点検評価報告書_評価の視点1-1根拠資料
	実施状況（専攻科）		自由記述		
設問4-1-3	点検結果の学内外開示状況				
	ホームページ	公開している	自己点検・評価 国立東京工業高等専門学校	4-1-3-1-1	
	グループウェア	公開していない		4-1-3-1-2	
	その他			4-1-3-1-3~	
設問4-1-4	教育活動に対しての社会の要求、学生の要望に配慮するための仕組みを所掌する組織				
	社会の要求	ある	組織名称を自由記述	4-1-4-1	4-1-4-1-1_教学マネジメント委員会規則(再掲) 4-1-4-1-2_参与会規則(再掲)
	学生の要望	ある	組織名称を自由記述	4-1-4-2	4-1-4-2-1_教学マネジメント委員会規則(再掲) 4-1-4-2-2_教務委員会規則 4-1-4-2-3_専攻科委員会規則
設問4-1-5	教育活動に対しての社会の要求に配慮するための仕組み				
	アンケート	ある		4-1-5-1-1	4-1-5-1-1-1_就職先企業アンケート(年度未提出)(再掲) 4-1-5-1-1-2_就職先企業アンケート
	聞き取り調査	ある		4-1-5-1-2	4-1-5-1-2_参与会記録
	その他			4-1-5-1-3	
設問4-1-6	教育活動に対しての学生の要望に配慮するための仕組み				
	アンケート	ある		4-1-6-1-1	4-1-6-1-1-1_令和5年度卒業生・修了生アンケート 4-1-6-1-1-2_令和6年度授業評価アンケートおよびフィードバック 4-1-6-1-1-3_学びの状況調査について(周知) 4-1-6-1-1-4_入学時アンケート
	聞き取り調査	ある		4-1-6-1-2	
	その他		自由記述、なければ空欄	4-1-6-1-3	
設問4-1-7	設問4-1-1~4-1-6の点検活動が機能しているかどうかを確認する仕組み				
	仕組みの概要		自由記述、なければ空欄	4-1-7-1-1~	
4.2 継続的改善		選択してください			

項目	設問	記述		指定添付資料番号	エビデンス（番号：資料名で記載）
設問4-2-1	教育活動を継続的に改善する内部質保証の仕組みを担当する組織				
	カリキュラムレベルでの改善を所掌する部署（本科）	ある	組織名称を自由記述	4-2-1-1-1	4-2-1-1-1_教学マネジメント委員会規則(再掲)
	カリキュラムレベルでの改善を所掌する部署（専攻科）	ある	組織名称を自由記述	4-2-1-1-2	4-2-1-1-2_教学マネジメント委員会規則(再掲)
	科目レベルでの改善を所掌する部署(本科)	ある	組織名称を自由記述	4-2-1-2-1	4-2-1-2-1_教学マネジメント委員会規則(再掲)
	科目レベルでの改善を所掌する部署(専攻科)	ある	組織名称を自由記述	4-2-1-2-2	4-2-1-2-2_教学マネジメント委員会規則(再掲)
設問4-2-2	データに裏付けされた教育改善の実施状況				
	データに裏付けされた教育改善の実施状況		年4回学習到達度検討会を実施し、各学科等の取り組みについて共有	4-2-2-1-1	4-2-2-1-1_R06学習到達度検討会概要・第一回議事要旨 4-2-2-1-1-2_教育研究会資料(IR室報告20240725) 4-2-2-1-1-3_2024年度CBT_数学_分析
設問4-2-3	教育改善活動の実施状況				
	カリキュラムレベルでの教育改善活動状況（本科）		自由記述	4-2-3-1-1	4-2-3-1-1-1_R06教育研究会開催状況 4-2-2-1-1-2_R06学習到達度検討会概要・第一回議事要旨
	カリキュラムレベルでの教育改善活動状況（専攻科）		自由記述	4-2-3-1-2	4-2-3-1-2-1_R06第7回専攻科委員会議事要旨・資料
	科目レベルでの教育改善活動状況（本科）		毎年学期末毎に授業改善記録にて担当教員による科目毎の授業改善実施状況と次年度に向けた授業改善計画を報告している。本内容は教務委員会にて確認している。	4-2-3-2-1	4-2-3-2-1-1_R6年度授業改善記録の例（本科） 4-2-3-2-1-2_20250516教務委員会議事要旨
	科目レベルでの教育改善活動状況（専攻科）		毎年学期末毎に授業改善記録にて担当教員による科目毎の授業改善実施状況と次年度に向けた授業改善計画を報告している。本内容は教務委員会にて確認している。	4-2-3-2-2	4-2-3-2-2-1_R6年度授業改善記録の例（専攻科） 4-2-3-2-2-2_20250516教務委員会議事要旨（再掲）